

琉球大学学術リポジトリ

幼児教育と小学校教育の接続を重視したスタートカリキュラムの探究—スタートカリキュラムに基づく生活科授業実践を中心にして—

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学院教育学研究科 公開日: 2023-05-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 下地, 昌代 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002019867

幼児教育と小学校教育の接続を重視したスタートカリキュラムの探究

—スタートカリキュラムに基づく生活科授業実践を中心にして—

The Quest for Elementary School Curriculum that is Emphasized Connecting
from Preschool Education

下地 昌代
Masayo SHIMOJI

琉球大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻・西原町立西原東小学校

1. はじめに

『小学校学習指導要領』（文部科学省 2008：73）の生活科の「指導計画作成と内容の取扱い」では、「国語科、音楽科、図画工作科など他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に、第1学年入学当初においては、生活科を中心とした合科的な指導を行うなどの工夫をすること」や幼小接続に関して相互に留意する旨が示された。また、「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のあり方について（報告）」では、幼児期の教育の目標と児童期の教育の目標を「学びの基礎力の育成」という一つのつながりとして捉えるとしている（文部科学省 2010）。

また、『小学校学習指導要領解説生活編』の「改訂の趣旨」（文部科学省 2018a:6）では、「幼児期の教育との連携や接続を意識したスタートカリキュラムについて、生活科固有の課題としてではなく、教育課程全体を視野に入れた取組とすること。スタートカリキュラムの具体的な姿を明らかにするとともに、国語科、音楽科、図画工作科などの他教科等との関連についてもカリキュラム・マネジメントの視点から検討し、学校全体で取り組むスタートカリキュラムとする必要がある」と指摘された。さらに「改訂の要点」として、「生活科においては、言葉と体験を重視した前回の改訂の上に、幼児期の教育とのつながりや小学校低学年における各教科等における学習との関係性、中学年以降の学習とのつながりも踏まえ、具体的な活動や体験を通して育成する資質・能力（特に「思考力、判断力、表現力等」）が具体的になるよう見直すこととした」とあり、教科目標の中でも「生活科が教育課程において、幼児期の教育と小学校教育とを円滑に接続するという機能をもつことを明示」（前掲 2018a:8-9）することが求められた。

筆者のこれまでの実践を振り返ってみると、それぞれ特色のある幼児保育・教育施設（町内外 13 施設）で保育や幼児教育を経た、家庭や保育環境、経験知に違いのある児童を受け入れて一緒に学校生活をスタートし学習を共にしていくことへの指導の難しさを感じ、まずクラスの規律を揃え、それに適応させることに重きを置き過ぎていたとの反省がある。生活面・学習面の個人差に応じた個別支援として、家庭と連携し個別の育ちに応じた支援を行ってきたが、その指導過程に時間を要した。また、スタートカリキュラムの工夫・改善にも時間配分や内容に課題が存在していた。更に、保幼小連絡会を立ち上げて共通理解と連携構築を目指したが、双方間の理解が深まっているとは言えないのが現状であった。加えて、幼児教育での経験や発達の理解、これまでの育ちを踏まえた支援や指導・授業づくりの工夫にも課題があった。

筆者の第1学年の指導経験から、児童が実際に受けてきた就学前教育では、自分で選択して体験的に時間をたっぷり使って活動できていたのが、小学校での45分という授業の区切りや10分間という短い業間休み、座学への我慢や学習規律を強いられることによる児童のストレスが見受けられた。また、教科の枠に縛られ、興味・関心や活動のつながりが途切れる事や、幼児教育で培ってきた「年長プライドの消失」による行動面での後退も見られた。

以上のことから、年長プライドを引き継ぐ指導や、総合的な学ぶ活動である遊びから、教科学習への移行による抵抗感を緩和する教科等横断的なカリキュラムを基にした指導が必要である。そのためには、小学校の教師が幼児教育への理解を深め、接続期カリキュラムであるアプローチカリキュラムを基に就学前との育ちの連続性を意識した、スタートカリキュラムの作成が求められている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、幼児教育とのつながりを重視し、就学前教育と小学校教育のスムーズな接続を企図したスタートカリキュラムの改善を図ることである。具体的には、筆者の勤務校が所在する自治体の年長児の実態に基づいたスタートカリキュラムの作成と、それに基づく生活科による合科的学習を生かした指導の工夫であり、その実践を報告することでスタートカリキュラムの改善事例を示す。

3. 研究方法及び内容

- (1) A町保育所・保育園・幼稚園・認定こども園及び町内小学校1年担任への実態調査と分析
- (2) 実態調査と分析に基づいたアプローチカリキュラムとのつながりを意識したスタートカリキュラム作成
- (3) 実践を通じたスタートカリキュラムの改善

4. 研究の実際

(1) 幼小接続に関する近年の動向

『小学校学習指導要領解説 生活編』（文部科学省 2008）の「改訂の趣旨」では、「小1プロブレムなどの問題が生じる中、小学校低学年では、幼児教育の成果を踏まえ、体験を重視しつつ、小学校生活に適應すること、基本的な生活習慣等を育成すること、教科等の学習活動に円滑な接続を図ること、などが課題」であり、「幼児と児童の交流をはじめとした幼児教育との連携を、一層推進することが改めて重要である」と記され、幼小の接続の重要性の認識とその取り組みの推進が求められた。

『小学校学習指導要領解説生活編』（文部科学省 2018）の「指導計画の作成内容の取扱い」では、次のように示された。

他教科等との関連を図り、指導効果を高め、低学年における教育全体の充実を図り、中学年以降の教育へ円滑に接続できるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期における遊びを通じた総合的な学びから他教科等における学習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるようにすること。その際、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。

幼児教育との育ちの連続性を考慮した指導や円滑な接続の工夫、生活科を中心とした合科的・関連的な指導、弾力的な時間割の運用が求められている。

(2) A町内の幼児教育施設・幼稚園・小学校のアンケート調査の結果から

スタートカリキュラムを作成するに当たり、令和3年11月にA町の幼児教育施設へのアンケート調査を行い、その結果に基づいたスタートカリキュラムの作成を行うこととした。アンケートは、以下のような分析結果となった（表1）。

育成する能力について、保育園では、「豊かな感性や生活習慣の育成」が重視されている傾向が見られることに対して、幼稚園では「人間関係作りやコミュニケーション力の育成」が重視されている傾向が

表1 A町内の幼児教育施設・幼稚園・小学校のアンケート調査結果

「A町内幼児保育・教育施設、公立幼稚園への意識・実態調査結果1-①」調査日：11月15日			「A町内幼児保育・教育施設、公立幼稚園への意識・実態調査結果1-①」調査日：11月15日			
質問項目	幼児保育・教育施設（9施設）	公立幼稚園（4園）	質問項目	幼児保育・教育施設（9施設）	公立幼稚園（4園）	
1. 保育内容で特に重視して取り組んでいる項目	・豊かな感性や情操を育てる ・基本的な生活習慣を身に付ける	・人への思いやりを持つこと ・考えや思いを言葉で伝える事	8. 保幼小連携で困っていること	・子ども間・保幼小職員間の交流や情報交換の推進が必要 ・年度末の申し送り、新学期で人事異動等でしっかり引継がれていない ・年度末の交流会や情報交換会の日程調整が難しい ・入学前の文字指導の相違	・お互いの保育や保育園への保育参観や小学校の授業参観の時間がとれない ・年間を通しての情報交換会がもてない ・コロナ禍で交流が計画通りできない ・保幼小の保育・教育内容の共通理解を図る時間確保 ・小学生と園児の交流時間が少ない ・ゆとりを持った計画ができない	
2. 現時点での年長児の実態	・ルールやマナーを守ることができる ・じっくり考え粘り強く取り組める ・自分の思いや考えを話すことができる	・友達と仲良く活動する ・活動的な遊びを好み、意欲的に遊ぶ ・生活習慣が身についている		9. 今後の保幼小連携で取り組んでみたいこと	・組織の枠を超えた情報交流・連携の強化・充実 ・情報交換会の持ち方や内容の精選 ・子ども同士の交流の機会を作る ・連続先の様子を写真で掲示したり、連続後の様子を知りたい ・小学校教諭を保育参観に招きたい	・保幼小交流会（小学校に見学・保育園児を招く） ・勉強会（カリキュラム編成・就学までに付けたい力の共通理解・1年担任との情報交換） ・新1年生になつての1週間の様子を見学したい ・お引き会ではなく小学校での体験活動をさせたい ・引き続き、支援学級見学や引継ぎ相談 ・保幼小の保育・授業参観 ・保育園に、幼稚園入園予定の子ども達の様子を見に行きたい
3. 卒園までに重点的に育てたい項目	・自分の思いや考えを話すことができる ・じっくり考え粘り強く取り組める ・友達と仲良く活動する ・ルールやマナーを守ることができる	・自分の思いや考えを話すことができる ・じっくり考え、粘り強く取り組む ・友達と仲良く活動する			10. 小学校への要望 質問ご意見等	・保幼小が連携している実績を具体的に保護者へも「見える化」したい。 ・目標を確認し明確にすることで、保幼小が相互を支え合い、高め合える。 ・情報交換会の日程調整はお互いの事情を考慮してほしい。 ・保幼小での発達障害等の勉強会。 ・卒園児の進学後の様子が知りたい。
4. 保幼小連携・接続についての意義	・子どもの発達や学びの連続性を見通した教育課程を編成するため ・特別な支援を要する子どもに対応する為 ・保育・教育内容や指導方法などについて相互理解を図る為	・子どもの発達や学びの連続性を見通した教育課程を編成するため ・保育・教育内容や指導方法などについて相互理解を図る為 ・特別な支援を要する子への対応	調査結果からの考察			・保育園では、豊かな感性や生活習慣の育成が重視されている傾向が見られた。 ・年長児の実態は、「規律を守る」「粘り強く取り組む」「思いや考えを話す」という傾向が見られた。 ・保幼小の情報交換会の計画を事前調整して年間計画に明記して計画的に実施。 ・保育・教育内容（カリキュラム）の共通理解を図り、育ちの連続性を目指す。 ・施設紹介写真掲示やお便り等で知らせ、子どもや保護者へ安心感をもたせる。 ・保育・授業参観の実施で共通理解する。
5. 小学校との連携・接続の取り組み状況（園児・児童・職員間）	・お引き会を通じた交流 ・行事や生活科を通じた交流 ・入学前後の連絡会や情報交換会 ・行政による協議会や情報交換会	・5年生との交流 ・お引き会や行事・朝の活動・休憩時間の交流 ・行政による協議会や情報交換会 ・入学前後の連絡会や情報交換会 ・交流活動についての打ち合わせ		6. 保幼小連携・接続の取り組み内容で重要だと思う項目（園児・児童・職員間）		・1・2年生の生活科学習を通じた交流 ・お引き会を通じた交流 ・行事を通じた交流 ・入学前後の連絡会や情報交換会 ・行政による保幼小学校合同連携協議会
6. 保幼小連携・接続の取り組み内容で重要だと思う項目（園児・児童・職員間）	・1・2年生の生活科学習を通じた交流 ・お引き会を通じた交流 ・行事を通じた交流 ・入学前後の連絡会や情報交換会 ・行政による保幼小学校合同連携協議会	・お引き会を通じた交流 ・5年生との交流 ・入学前後の連絡会や情報交換会 ・行政による協議会や情報交換会			7. 幼児期の育ちを小学校につなげるために必要だと思う取り組み	・保幼小職員同士の情報交換 ・共通理解を深めるための研修会 ・職員・保護者を交えた意見交換会 ・子ども達の交流学習
7. 幼児期の育ちを小学校につなげるために必要だと思う取り組み	・保幼小職員同士の情報交換 ・共通理解を深めるための研修会 ・職員・保護者を交えた意見交換会 ・子ども達の交流学習	・小学校入学までに育てたいことを共通理解・情報交換する時間確保 ・幼小の保育・授業参観 ・幼小合同研修会での育ちの連続性とカリキュラムの確認				

ある。年長児の実態については、保育園では「規律を守る・粘り強く取り組む・思いや考えを話す」という傾向があり、幼稚園では「活動的な遊びを好み意欲的に遊ぶ・友達と仲良く活動できる・生活習慣が身についている」という傾向が見られた。そのことから、保育園では規律を守ることに意識があり、幼稚園では友達との関係作りを大切にしている傾向が伺える。保・幼・小が共通して取り組みたい事項としては、「保育・授業参観、保育・教育内容（カリキュラム）の共通理解、保幼小の情報交換会・連絡会議の実施」が挙げられていた。また、保育園・幼稚園で卒園までに重点的に育てたい項目として、以下の3つの項目が把握できた。①自分の思いや考えを話す力②友達と仲良く活動する力③じっくり考え粘り強く取り組む力の育成である。これらの能力の育成に向けて、年長児の実態も視野に入れながら、時間設定の工夫、合科的・関連的指導、効果的な学習活動の組み立て、これまで培ってきた「年長プライド」も生かした発問の工夫等に考慮し、スタートカリキュラムを作成することとした。

(3) スタートカリキュラムの作成の意図

先述のA町のアンケート結果から、重点的に育成したい項目として挙げた、「自分の思いや考えを話す力」「友達と仲良く活動する力」「じっくり考え粘り強く取り組む力」の3つの項目の育成に向け、次の3つの学習時間を工夫し、さらに学習活動の留意点（以下④～⑥）を加味してスタートカリキュラムを作成した。

- ① 「自分の思いや考えを話す力」を育成するために、朝の会から1校時にかけて「ゆったりタイム」として幼児期に親しんできた遊びの要素を取り入れた活動で、楽しさや安心感を作る時間とし、安心して話す場面を多く設けた。
- ② 「友達と仲良く活動する力」の育成のために、2・3校時を連続して設定した「いきいきタイム」とし、生活科を中心とした合科的・関連的な学習活動にゆったり取り組む時間とした。「いきいきタイム」には、友達との交流場面を多く設けて友達と仲良くなれる活動を設定した。

③ 「じっくり考え粘り強く取り組む力」の育成のために、4校時は「わくわくタイム」とし、カリキュラム前半は給食指導や帰りの準備の時間、後半からは学習に対する期待感を生かして、教科学習にじっくり取り組む時間とした。教科学習を通して粘り強く考える場面を設け、児童の考えを全体で共有しながら楽しく学習に取り組ませる。

また、年長児の実態として、保育園では「規律を守る・粘り強く取り組む・思いや考えを話す」という傾向があり、幼稚園では「活動的な遊びを好み意欲的に遊ぶ・友達と仲良く活動できる・生活習慣が身についている」ということから、どちらの実態も生かせるように、④活動的な遊びと小学校での規律の指導をバランスよく組み入れ、児童の実態を生かした活動ができるようにした。さらに、⑤教科学習の比重を段階的に増やしていくと同時に幼児教育での遊びの要素を段階的に減らし、徐々に小学校の学習に馴染んでいけるように配列した。また、⑥単元配列表を基に関連性のある学習を合科的に関連づけて指導できるようにすることや、生活科を中心として各教科をつなぎ、馴染みのある幼児期の総合的な学びのスタイルを意識して指導できるようにした。

カリキュラム実践の留意点として、ア. 児童の実態に合わせて柔軟に計画を変更する意識で実施する、イ. 幼児期の学びを土台にし、小学校との学びの連続性を意識した指導を行う、ウ. 幼児期に獲得した力を十分に発揮できるよう、児童を認め自己肯定感が高まる言葉かけや勇気づけにつながる支援を心がける、エ. 児童の考えを引き出し一緒に考えながら、小学校生活を進めていけるようにした。

(4) 作成した単元配列表とスタートカリキュラム

スタートカリキュラム作成にあたり、合科的・関連的指導を行うため以下の単元配列表(表2)を作成し、カリキュラム(表3)に反映させた。特に2・3校時に設定した「いきいきタイム」では、生活科と他教科を合科的・関連的に設定し、学習内容を関連付けながら幼児期での総合的な学びのスタイルと違和感なく取り組めるようにした。

表2 単元配列表

各教科等	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週	
国語	いいてんき おはなしたのしいな あつまってはなそう	えんぴつとなかよし どうぞよろしく なんていおうかな	こんなもの みつけたよ うたのあわせてあいうえお こえにだしてよう	ききたいなともだちはなし たのしいな ことばあそび はなのみち	とよかんへ いこう かきとかぎ・ぶんをつくらう ねことねこ				
算数	入門期(ぼくじょうたんけん)	10までのかず	10までのかず	いくつといくつ	いくつといくつ	あわせていくつ・ふえるといくつ	あわせていくつ・ふえるといくつ	あわせていくつ・ふえるといくつ	
生活	「せいかわか はじまるよ」 ・あ、あれ、わくわく いっぱい ・きょうから1年生 ・学習のはじまり・学校の1日	「わくわくどきどきしょうごう」 ・こうてい たんけんしよう ・がっこうのなかがあるこう ・なにをかんじたかな							
音楽	うたって おどって なかよくならう (うたってなかよし・セブンスステップ・ひらいたひらいた)								
図画 工作	すきなもの いっぱい こいのぼりをつくらう								
体育	やってみよう (仲間づくりゲーム・じゃんけん列車・ジャンブルズ・走り餅)								
道徳	みんなでのしく あひさつで げんき みんなであまもう								
特別 活動	1年生の生活(よろしくね・学校のきまり・たのしい勉強・お昼寝)								

表3 スタートカリキュラム(第3週)

＜この週で目指す子どもの姿＞ 学校生活の様子を知り、安心して楽しく過ごす。					
時	4月18日(月)	4月19日(火)	4月20日(水)	4月21日(木)	4月22日(金)
朝	「ゆったりタイム」: 幼児期に親しんできた遊びの要素を取り入れた活動で、楽しさや安心感を作る時間。 朝の挨拶 → ランセルの片付け → 道具の片付け → 自由遊び ①健康観察 ②水やり ③歌おう・手遊び ④みんなで遊ぼう(レク遊び・読み聞かせを聞く・お話をしよう) ※幼児期に親しんできた遊びや、友達と関わる活動を取り入れ安心感を持たせる。				
	音楽	国語	道徳	音楽	国語
1	「うたってなかよし」 ・みんなで遊びながら楽しく歌おう。 見てお話をする。	「お話たのしいな」 ・いろいろなお話を聞いたり、絵を見てお話をする。	「あひさつパワー」 ・心を込めて挨拶をする良さを考える。	「セブンスステップ」 ・友達と一緒に楽しく踊ろう。 ・校歌を歌おう	「どうぞよろしく」 ・自分の名前を丁寧に書く。 ・ひらがな練習
	「いきいきタイム」: 生活科を中心とした合科的・関連的な学習活動に、ゆとりを取り組む時間。				
	生活・体育	算数・生活	算数・体育	算数・図工	生活2時間
2	「1年生になったよ」 ・小学校生活に親しみ、安全を守ってくれる人や交通標識について知る	「10までのかず」 ・おはじきやブロックを数える。 ・「3」の意味や読み方・書き方がわかる。	「10までのかず」 ・おはじきやブロックを数える。 ・「1」「2」の意味や読み方・書き方がわかる。	「10までのかず」 ・おはじきやブロックを数える。 ・「4」「5」の意味や読み方・書き方がわかる。	「なかよくしたいな」 ・名刺を書いて、友達と自己紹介をしながら、名刺交換をする。 ・交換した名刺をノートに貼る。
3	「整列・道具遊び」 ・並びっこ ・道具遊び	「わたしのあさがお」 ・あさがおの種を植える。	「整列・道具遊び」 ・グループ分け ・道具遊び	「好きな物いっぱい」 ・自分の好きな物を楽しく描く。	
	「わくわくタイム」: 学習に対する期待感を生かして、教科学習にじっくり取り組む時間。				
	国語	書写	国語	国語	算数
4	「いいてんき」 ・絵を見て、友達とお話をする。 ・ひらがな練習	「自分の名前を書こう」 ・正しい姿勢と鉛筆の持ち方で、自分の名前を書く。	「あつまって話そう」 ・好きな動物について話す。	「えんぴつとなかよし」 ・正しい姿勢や鉛筆の持ち方で、ひらがな練習をする。	「10までのかず」 ・1～5の数字の意味や読み方・書き方がわかる。

(5) 作成したスタートカリキュラムの実践から

① 幼児教育との接続を意識した授業づくり

田澤（2020）は、「幼児教育は小学校以上の教育とは異なり、資質・能力の3つの柱も、育む方法も異なる。様々なあそびを経験する中から『知識・技能の基礎』『思考力・判断力・表現力等の基礎』『学びに向かう力・人間性等』が育まれる。小学校の授業に役立てるために幼児教育があるわけでもない。今の育ち（幼児期の遊びの中の育ち）と次の（小学校）も理解し、さらに伸ばすための接続ということである」と述べている。

田澤が指摘するように幼児教育で培った力を土台にこれまでの経験を生かした活動ができるよう、児童と対話しながら知識や体験を引き出し、「年長プライド」を生かしながらつながりを意識して指導するようにした。児童が幼児教育で培ってきた力を理解し、小学校での資質・能力へとどうつなげていくかを意識しながら、「保育園や幼稚園でもやった事あるかな」、「知っている事を教えてください」等の問いかけをし、これまでの経験に基づく知識・技能をクラス全体で共有しながらその土台を基に学習が進められるようにした。また、授業実践を通して分かった事として、児童の実態に応じてカリキュラム実践を柔軟に変更しながら行うことも必要である。その為には、児童との早期の信頼関係づくりを基本にし、児童の意欲や理解度を把握し、教師が臨機応変に対応する判断力・調整力が求められる。

さらに、児童の実態に対応できるような教材・教具の準備には、学年間での情報共有と共通理解をしながら、協力して準備する事が大切である。この時期の児童にとって担任教師の対応が、学校生活への意欲と適応に大きく影響することから、勇気づけの言葉かけを行い、児童の変容を見取り、価値付けし、自己肯定感と自信を高め、「年長プライド」を引き継いだ指導を行うことを大切にしたい。

② 個別の指導・支援から見えてきたこと

特別支援学級に所属するB児の協力学級として入学当初から受け入れ、その個別の指導を通じた児童同士の関わりを、学級づくりに生かせるようにした。互惠性のある関わり合いを通して、学級の中で相手を理解すること・思いやり・許す気持ち・共感・助け合う姿等が見られ、学級集団の質の高まりにつながった。日々の学校生活の中でB児はまわりの児童と多々ぶつかり合い、それを基に学級全体で話し合うことで様々な気付きが見られた。7月になると児童から、「前よりB児は怒らなくなったよ」、「嫌なことをした後に、謝ることができるようになってきているよ」等のB児の成長に気付く発言があり、そのことを学級全体で共有する事でお互いの成長を喜び合える関係づくりと、自他の成長に気付く力の育成につながった。

冷めた態度のC児は、学習への意欲が低かったが、1年生を迎える会でのダンス発表で生き生きと体を動かし、そのことを教師や学級の児童から認められたことで自信となり、以後の学習意欲の向上へつながっていた。また、D児は、小食で給食への不安があり、給食時に毎日泣いていた。給食時の不安と、母子分離不安も重なり、登校時から泣いていることもあった。その対応として、本人の希望もあり、教師の横の席でしばらく学習させ、教師は勇気づけの言葉かけや優しく背中をさする等のケア的支援をし、温かくて柔らかいぬいぐるみやひざ掛け等を用意することで、D児は少しずつ落ち着き、しばらくすると学習に向かうことができた。そのことから、安心感を土台とした支援の大切さを再認識した。

これらの事から、担任の教師は児童相互の交流を促しながら、同時に接続期の児童の環境の変化による不安を受けとめ、勇気づけの言葉によって挑戦する力につなげる重要な存在であり、カリキュラムの工夫と合わせて教師の丁寧な対応が円滑な接続の鍵だといえる。

(6) 保護者アンケートの結果からの検証・考察

入学前後の児童・保護者の様子について、学級保護者へのアンケート調査を6月に実施し、保護者から見た児童の様子や保護者の意識について把握することで、幼小の円滑な接続が進められたかを検証する手がかりとした（表4）。これらのアンケートの結果から、入学前の不安としては、児童・保護者共に

友達についての不安が一番多く、次に勉強、給食となっていた。入学してから楽しいと感じている事や困った事としても友達との関わりを挙げており、児童・保護者が友達との関わりへの関心が高いことから、担任は良好な友達関係づくりに配慮した学級づくりや個別の支援が必要だといえる。

また、楽しんで学習できる授業の工夫と、児童が気持ちを伝えた時に、教師がそれをしっかり受け止める姿勢が求められている。給食への不安を抱えている事から給食時間の支援も大切にしなければならない。保護者が児童の成長を感じる事として、自主性の芽生えや読み書きができるようになった事が挙げられており、児童の生活や学習への意欲を引き出し、達成感へつなげることが必要である。スタートカリキュラムについては、保護者にとってもわかりやすかったとの意見があった。幼小接続については、年長児の時に小学校との交流を増やしてほしいという意見や、保育園との連携も配慮をしてほしいとの意見があり、小学校と同じ敷地内に在る公立幼稚園と離れた場所にある保育園との幼小連携の差がないように努めることが求められる。保護者から見て児童が学校生活を楽しく感じている事について、「学校の事や友達の事を楽しく話す」「毎日楽しそうに登校している」との回答が89%あったことから、今回のスタートカリキュラムの実施により幼小の接続が概ね円滑に進められたといえる。

表4 保護者アンケートによる集計結果

内容	回答調査日：6月30日：回答人数：17人	
1. 入学前のお子さんの不安	ア 友達ができるか イ 勉強が難しそう ウ 給食はおいしいか エ どんな決まりがあるか オ どんな先生か カ その他（・不安よりも早く学校へいきたい ・授業中にトイレに行きたいと伝えられるか ・仲良しの友達と同じクラスになれるか）	76% 24% 12% 6% 29% 18%
2. 入学前の保護者の不安	・友達ができるか（仲良くできるか） ・勉強についていけるか ・楽しんで通えるか ・先生や友達に思いを伝えられるか ・椅子に座っていられるか ・給食をたべることができるか ・忘れ物をしないか ・トイレに行けるか ・先生とうまくいくか	29% 24% 24% 18% 12% 12% 6% 6% 6%
3. 入学後の児童が楽しいと話していたこと	・休み時間に遊ぶ ・体育の学習 ・勉強が楽しい ・音楽の学習 ・算数の学習 ・当番や日直	29% 29% 24% 12% 6% 6% 29% 12% 6% 6% 6%
4. 入学後に児童が困っていたこと	・友達とのトラブル ・勉強が難しい ・1人で登校できるか ・学校に忘れ物 ・黒板が見えづらい	35% 6% 6% 6% 6% 6% 12% 6% 6% 6% 6%
5. 入学後に保護者が気になっていたこと	・自分の思いを話せるか ・勉強についていけるか ・言葉使い ・いじめはないか ・熱中症にならないか	12% 12% 6% 6% 6% 6% 12% 6% 6% 6%
6. 保護者から見て、児童が楽しんでいると感じること	・学校の事を楽しく話す ・友達のことを楽しく話す ・毎日楽しそうに登校している ・音楽で習った歌を家でも歌う ・おあそびがおあそびいたことを嬉しそうに話す ・翌日の準備を話す様子から ・プールで潜れたことが自信に ・入学当初は緊張が見られたが今はスムーズ ・友達と遊びたくて児童館へ行きたいと話す	59% 18% 12% 6% 6% 6% 6% 6% 6% 6%
7. 入学してから成長したと感じること	・宿題や持ち物の準備を自主的にする ・読み書きができるようになった ・時間割を見て自分で準備できる ・自分の事ができる ・朝の準備がスムーズになった ・友達が多くて楽しそう ・言語力がついてきた ・気遣いができるようになった	41% 12% 12% 12% 6% 6% 6% 6%
8. スタートカリキュラムについて（気付いた点）	・子どもと共有したいので読み仮名をつけてほしい。 ・一日の流れが分かりやすくて良かった。 ・持ち物や連絡も書かれていて助かった。	6% 6% 6%

(7) 児童アンケートの結果からの検証・考察

入学前後の児童の思いや考えについて、児童へのアンケート調査を7月に実施し、幼小の円滑な接続が進められたかを検証する手がかりとした（表5）。

入学前は友達や勉強、先生への不安が見られたが、入学してからは友達と遊ぶことに多くの児童が楽しさを感じ、プールや自由なお絵描き等の幼児教育で経験した活動と親和性のある遊びの要素が大きい活動に楽しく取り組んでいる事が伺える。好きな時間も休み時間で、友達と自由に開放的な気持ちで遊びたい様子であった。楽しい・好きな教科としては「算数」を挙げている児童が多く、数への興味・関心が高いことが伺えた反面、難しく感じている教科としても挙げており、興味・関心はあるが理解に差が見られる。「図工」も難しいと感じている児童がおり、幼児教育での経験値の差があることが、苦手意識につながっていると思われる。また、国語テストが難しいと感じている児童は、語彙力や理解力が弱く、家庭での読み聞かせや会話の少なさが見受けられた。それらのことから、スタートカリキュラムに

おいては、児童との会話や読み聞かせを多く取り入れること、友達との関係性を作る活動や遊びの要素を取り入れた学習活動を工夫すること、数を数えたりする活動を合科的に取り入れること、作成・表現場面では、技能面を身に付ける活動と、のびのび表現できる活動を組み合わせる等の配慮と工夫が必要だといえる。併せて、学級づくりと個別の支援を両軸でバランスよく実施することが、楽しい教科学習の土台となる。児童アンケートの結果から、96%の児童が学校で楽しいことがあり、64%の児童に特に困っていることがないとの回答から、半数以上の児童は小学校生活を楽しく過ごしている事が伺える。残りの36%の児童については、20%が学習面での難しさ、8%が給食での困り事、8%が友達関係での難しさを感じている事が把握できた。その事を踏まえて、授業や個別の支援の工夫、食育の実践や家庭との連携、コミュニケーションスキルを育む活動を取り入れていくことが必要である。

表5 児童アンケートによる集計結果

内容	回答	調査日：7月21日	調査対象：1年1組児童	回答人数：25人
1入学前の 気もち (3つ選択)	①友達ができるか 56% ③先生は優しいか 52% ⑤休み時間に遊べるか 44%		②勉強はわかるかな 52% ④どんな勉強か 40% ⑥給食はおいしいか 44% ⑦その他 4%	
2学校で楽しい こと	・友達と遊ぶ 28% ・図書館で読書 12% ・ドッジボール 4%	・プールで泳ぐ 20% ・おしゃべり 4% ・なわとび 4%	・自由帳へお絵描き 16% ・虫取り 4% ・音読 4%	
3好きな時間	・休み時間 48% ・体育 20% ・図書館で読書 16% ・朝の水やり 4%			
4勉強で楽しい こと	・算数 28% ・音楽 8% ・なわとび 4%	・テスト 20% ・図工 8% ・生活 4%	・国語 16% ・プールで泳ぐ 4% ・タブレット 4%	・体育 8%
5好きな教科	・算数 29% ・図工 12% ・音楽 8%	・国語 20% ・生活 4%	・体育 12% ・道徳 4%	
6勉強で難しい こと	・特になし 36% ・国語 20%	・図工 28% ・テスト 12%	・国語テスト 24% ・算数テスト 4% ・計算 4%	
7難しい教科	・算数 12% ・図工 8% ・生活 4%			
8、学校で困って いること	・特になし 64% ・作品作り 4%	・国語 8% ・いじわるされる 4%	・給食 8% ・勉強 4% ・友達と仲良くしたい 4%	・算数 4%

5. 終わりに～実践を基にしたスタートカリキュラムの改善～

表6 スタートカリキュラムにおける指導上の留意点

幼児教育で培う力	育ちや学びをつなげるスタートカリキュラムの指導上の留意事項	言葉	表現
健康	<p>＜幼児教育と小学校教育のつながり＞</p> <p>幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な物であり、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものである。幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達を基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを充実させたり発展させたりするために、環境を整える。その幼児期に育まれた遊びの中の総合的な学びを保育者・小学校教師がしっかり捉え、小学校での教科指導での「自発的な学び」に滑らかにつなげていくことを目指す。</p> <p>＜スタートカリキュラムの指導上の留意事項＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタートカリキュラムを実施するに当たり、学年間での指導の共通理解を図る。 ・個別指導で個を生かす機会を大切に、個の良さを認めながら集団学習への意識を高め、学び合いの学習を大切に。 ・給食に慣れる間は、食事の時間をゆったりとり、安心して楽しく食事ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生や友達のことばや話に親しみをもって聞いたり話したりする。 ・自分の思いを言葉で表現したり、分らないことを訪ねたり、挨拶をする。 ・いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。 ・絵本に親しみ、文字などで伝える楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勇気づけと認める言葉かけを行い、成長を見取り励まし、活動や気付きへの価値付けを行う。 ・ルールを守りながら、友達と一緒に遊ぶ事の楽しさを味わわせる。 ・学習規律の必要性を子どもたちと一緒に考え、楽しみながら規律を守るようにする。 ・学校生活の流れを把握できるように図示した掲示物を貼り、視覚的に捉えやすくする。 ・学校道具などで、いろいろな運動や遊びに挑戦させ、集団行動もできるように指導する。 ・豊かな材料を使った製作活動を経験させ、いろいろな用具の特性や扱い方も理解させる。 ・自然や動植物と触れ合う活動を通して自然への興味・関心を持たせ、科学的なものの見方へのヒントを提示して気付きを共有させる。 ・宿題や提出物の自己確認ができるよう、提出ボード等の工夫を行う。
人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間の活動を組み合わせるなど、自主の実態に応じて柔軟に指導できるようにする。 ・挨拶や朝の身支度、学習準備が自分で行えるよう手順や方法をわかりやすく表示しておく。 ・自分の机上を整えて学習ができるようにする。 ・番号順や2列等、様々な整列の仕方を学ばせる。 ・子どもの興味・関心を元にした生活科による合科的な指導を大切に、学習意欲を引き出して探求的な学びができるようにする。 ・朝の会から1校時にかけての「ゆったりタイム」では、読み聞かせやお話し、手遊びやゲーム、歌等を通してゆったり楽しむ時間や、気軽に自分の思いを話せる雰囲気づくりをして安心感をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中で様々な事象に気付いたり感じたりして楽しみ、感動したことを伝え合う。 ・感じた事や考えた事などを音や動き・書いたり作ったりして表現する。 ・いろいろな素材に親しみ工夫して遊び、自分のイメージを動きや言葉、演じて楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や学習場面で文字や数にふれ、その意味や書き方を知る。 ・国語の時間の始めに音読を取り入れ、いろいろな音読方法でひらがなや文章の読みを楽しませ、はっきりした発音で話せるようにする。 ・生活や学習場面で、人や物の数を数える活動を大事にする。 ・座る姿勢や鉛筆の持ち方・声ののさし等の掲示をし、子どもたちが自分で意識できるようにする。 ・ひらがなの筆順を楽しんで覚えらるよう、筆順カードを見ながら声に出して唱えたり、電子黒板を活用したりして習得させる。 ・毎日の朝の会や帰りの会で、挑戦したい事やがんばった事・できるようになった事・友達の成長等を話す時間を設定する。 ・集中して聞いたり見たりする力の育成を目指して、リズム打ちや数当てゲームに挑戦させる。 ・教師の読み聞かせや、図書館を利用していろいろな本に親しませ、楽しんで読書する時間を設定する。 ・簡単な曲を歌ったり、リズムやダンスを楽しんだりして、音楽に親しませる。 ・もの色や形への興味・関心を生かした活動をさせる。 ・年長ブライドを生かして、自己肯定感や達成感につなげる指導を意識して行う。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に触れて生活し、不思議さに気付く、性質や仕組みに興味を持つ。 ・季節の変化への気付きや身近な動植物との関わり、数量や図形・標識や文字、情報や施設への興味・関心をもつ。 <p>・幼児期までの経験や学びを子ども達と確認し、その学びを生かした指導を行う。</p> <p>・身近な人と関わる活動を設定し、その楽しさがわかり、進んで交流できるようにする。</p> <p>・集団の一員としてより良い生活や人間関係が築けるよう、学級での役割を持たせ意欲的に学級活動ができるよう、がんばりを共有する時間をつくる。</p> <p>・支持的風土づくりを目指し、友達の良さを認め合えるよう、教師が</p>		

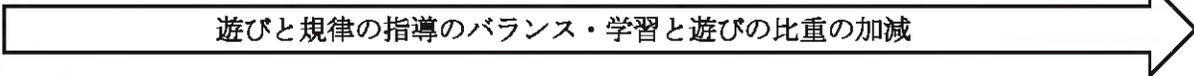
今回作成したスタートカリキュラム（表3）の実践を基に、次の事項を改善することにした。

- ① 今回のスタートカリキュラムの実践から、学年での指導の共通理解の大切さを感じた。そこで、教師用として、幼児教育で培ってきた力を理解し幼児期からの学びの連続性を意識した指導を目的として、指導の留意点を示した事項を付け加え、次年度からの指導に活用できるようにした（表6）。
- ② 今年度作成したカリキュラムに付け加えて、スタートカリキュラム時期の全容的な「活動及び目標」「時間区分」「支援・指導の留意点」「単元配列表」を配列したスタートカリキュラムを改に作成した（表7）。スタートカリキュラムの背景や教育的な意義を明文化することで、小学校入学後の接続期におけるスタートカリキュラムをより丁寧に指導面で具体化できるようにする。

保幼小の実態調査を実施させていただいたA町教育委員会から、本研究の成果を参考にスタートカリキュラムの構築を図りたいとの所見をいただいた。今後もスタートカリキュラムの改善を図りながら、円滑な幼小接続に向けて教育実践を進めていきたい。

表7 修正したスタートカリキュラム

各教科等	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週	第6週	第7週
活動及び目標	小学校との出会いを楽しみ、学校生活への期待感と意欲を持つ。	小学校との出会いを楽しみ、期待と安心感を持って学校生活に慣れる。	学校生活の様子を知り、安心して楽しく過ごす。	いろいろな学習に、意欲的に挑戦して楽しむ。	連休前後の生活リズムを整え、安心して楽しく学校生活を過ごす。	学校生活の様子がわかり、5校時までの時間を友達と一緒に楽しく過ごす。	学校生活に慣れ、友達と一緒に生き生きと学校生活を過ごす。
時間区分	「ゆったりタイム」：幼児期に親しんできた遊びの要素を取り入れた活動で、楽しさや安心感を作る時間（朝の会～1校時） 「いきいきタイム」：生活科を中心とした合科的・関連的な学習活動に、ゆったり取り組む時間（2・3校時） 「わくわくタイム」：学習に対する期待感を生かして、教科学習にじっくり取り組む時間（4校時）						
留意点	・勇気づけの言葉で励まし、日々の成長を見取り、価値付けの言葉で児童に伝えることで、学校生活への安心感と意欲につなげる事を継続する。						
国語	いいんき おはなしたのしいな あつまってはなそう	えんぴつとなかよし どうぞよろしく なんていおうかな	こんなもの みつけたよ うたのあわせてあいえお こえにだしてよう	ききたいなどもだちのはなし たのしいな ことばあそび はなのみち	としよかんへ いこう かきとがき・ぶんをつくろう ねことねっこ		
算数	入門期（ぼくじょうたんけん）	10までのかず		いくつといくつ	あわせていくつ・ふえるといくつ		
生活	「せいかつかが はじまるよ」 ・あ、あれ、わくわくが いっぱい ・きょうから1年生 ・学習の はじまり ・学校の1日	「わくわくどきどきしょうがっこう」 ・こうていを たんけんしよう ・がっこうのなかがあるこう ・なにをかんだかな		・じぶんたちで いってみよう ・もっと たんけんしてみよう ・みつけたことを はなそう ・あんぜんな、せいかつ	「わたしのあさがお」 ・あさがおの種の観察 ・種まきの準備 ・種まき		
音楽	うたって おどって なかよくなるろう (うたってなかよし・セブンスステップス・ひらいたひらいた)	はくを かんじとろう (さんぼ・じゃんけんぼん・なまえあそび・フルーツランド・みんなであそぼう)					
園工	すきなもの いっぱい こいのぼりをつくろう	かきたいもの なあに	おたんじょうび たまご	おひさま にこにこ ひもひもねんど	みてみて あのね		
体育	やってみよう (仲間づくりゲーム・じゃんけん列車・ジャングルジム・登り棒)	ねことねずみ しっぽり競争		おにごっこ	バランスをとる動き 用具を使った動き		
道徳	みんなで たのしく	あいさつで げんき	みんなでまもうろ	がっこうたんけん	わたしにできること	みんなみんな いきている	
特活	1年生の生活（よろしくね・学校のきまり・たのしい給食・お仕事楽しいな）		楽しい遠足	図書館ってどんなところ	そうじの仕方		



引用文献

文部科学省, 2008, 『小学校学習指導要領（平成20年告示）解説 生活編』日本文教出版株式会社。
 文部科学省, 2018a, 『小学校学習指導要領（平成29年3月告示）』, 東洋館出版社。
 文部科学省, 2018b, 『幼稚園教育要領（平成29年3月告示）』, 第2章, 東山書房。
 文部科学省, 2018, 『発達や学びをつなぐスタートカリキュラム』, 精文堂印刷株式会社。
 田澤里喜・吉永安里, 2020, 『幼児教育から小学校教育への接続』株式会社世界文化社。